

園長室だより (さむたいむず)

令和7年6月30日第2号 大阪市立桃園幼稚園

6月に入り、梅雨独特の蒸し暑さが、やってきました。それでも子どもたちはとても元気に遊んでいます。

5月から始まった色水遊びや泥遊びもそうですが、新たにウォーターパークでの遊びに、私は驚いております。プールまでの水に親しむ活動としては、抜群の環境で、子どもたちはスーパーボールすくいをしたり、ボール転がしをつくったり、水でっぽうでの的当てをしたり、しかも水着で遊ぶので、存分にビチャビチャになって遊ぶ姿を見ると、「こんな素敵な環境はもしかしたら大阪市1番かも！」と思います。ボール転がしの仕掛けもこの活動が始まる前から5歳児が作っていました。また試して遊び、「水が漏れる！」と、また作り変えて発展させていました。この過程こそが学びで、遊びながら「こうしよう」「あーしよう」と相談したり、水の流れる角度に気付いて角度をつけたり、また、遊びながら「ボールが流れない!」「水が漏れる!」と疑問に思い、試行錯誤したり…。遊びながら、様々なことに気付き、友達と相談して諦めず作り上げていく過程こそが学びにつながる姿です。自分たちで「やってみたい!」という思いを伝えあい、実現する。そんな素晴らしい活動が桃園幼稚園では日々、繰り広げられています。



ボール転がしをつくる5歳児

昨年の経験からボール転がしをつくっています。相談しながら、ボールを転がしてみたり、角度をつけてみたり、試行錯誤して作っていました。でも当日、「水が漏れる!」と問題発覚…。早速、昼から修理していました。修理してまた使って遊び、また違うことに気付き、修理し、この過程がとても大切です。友達とイメージを共有し、やってみてダメだったら、やり直し。諦めず挑戦する姿こそ、これからの学びにつながっていきます。



枇杷を収穫!

たわわに実った枇杷を子どもたちも楽しみにしていました。色づき始めると、子どもたちが早速見つけ、収穫の時期を知らせてくれました。サクランボの収穫、ジャガイモの収穫を経験しているので、「次は枇杷!」とばかりに発見です!

高い場所に生るので主事さんがハサミで切った枇杷を下で子どもたちが受けます。写真(左)は年長が「わっしょい!わっしょい!」と掛け声をかけて運んでいるところです。すべてが遊びになります!



地域の方々にジャガイモや枇杷を配りました!

地域の方々に収穫物を配りました。するとアトリエにあげていただき、子どもたちはおじさまの話を真剣に聞いていました。また、地域の商店街を歩いていると、毎年指導に来てくださる書道の杉田先生に偶然お会いしました。持っていた枇杷を差し上げると、後日お手紙をいただきました。アトリエに入らせていただいた方からも、お手紙が届き、地域の方の温かさを感じました。「お礼状」って最近、いただくことが少なくなりましたが、子どもたちはこうして一つ一つ大切な経験をしています。



公園に遊びに行くと、一人のおばあさんが声をかけてくださりました!「私も80年ほど前に桃園幼稚園だったの!」と。「桃園幼稚園大好き!」ともおっしゃってください、桃園幼稚園の歴史を感じます。

こうして地域の方から愛される幼稚園であることに誇りを感じます。子どもたちは今、言葉で表現できなくても、きっと心で感じています。



ウォーターパークができるまで。

まず、教職員で準備をします。テントを出し、足をくくりつけて、強風にも対応できるようにします。また、デッキブラシでしっかりこすり、高圧洗浄で洗い、子どもたちが安全に活動できるように準備します。また、プールにヤゴがいたら、子どもたちのために網ですくって捕獲します。楽しい活動の裏には、必ず大切な準備があり、チームになって教職員でその活動を支えます。



5歳児作成のカタツムリ

5歳児もカタツムリを作って表現していました。体を動かして表現したり、作って表現したり、様々な表現を楽しみながら活動します。体で表現することが苦手でも作って遊ぶことは得意な子どもたちもいます。それぞれの得意不得意を持ち味と捉え、様々な方法、しかも、自由な表現活動をすることで、自分のありのままの表現に自信をもっていきます。



こんなで
きたよ！

と、作ったカタツムリ
の家を見せてくれま
した！



カタツムリとのふれあい～表現遊び～園内研究

カタツムリを触って、ご飯（人参・キャベツなど）をあげ、お世話をし、アジサイでブランコさせて遊ばせ、表現活動をする4歳児です。そして、今回、その活動を園内研究しました。（園内研究会：私たちは学び続けなくてはならない教員です。子どもの姿を読み取り、言葉をかけたり、環境を設定したり教育的な配慮をする。その配慮は、これまでの経験値や感覚的なところもありますが、その捉え方は多面的でまた、深いものでなくてはなりません。幼児理解を多面的に、深くみていくことを園内研究で学び、環境の設定や言葉かけなど適切であるかを学んでいます）

これまでの積み重ねがあり、子どもたちは体でカタツムリを表現し、かくれんぼをしたり、ブランコをしたりとものびのびと表現していました。その表現を先生に受け止めてもらえることで、自信になり、さらに表現しようとする。そんな姿が見られ、教職員同士、互いに学び合いになりました。

プール活動までの取り組み

5歳児は、4歳児の時の経験から、ウォーターパークの活動を自分たちで考え準備していました。フープで水をガードするものや、水でっぽう的など、自分たちで全て作ったものです。活動をこんなに自分たちで考え、準備し、活動自体をつくっていく子どもたちの力は素晴らしいです。

もちろんその投げかけは担任の先生です。先生は活動のねらいをもち、子どもたちに気付いてほしいこと、また、育ててほしいことなど、先生の頭の中にあります。

そして、様々な環境のしかけをして、その活動の中で、子どもたちのアイデアを引き出し、自分たちが考え、自分たちで作っていくように導きます。活動を見守り、自分たちでやり遂げたときに、「すごいね！」と共感し、充実感を味わえるようにします。子どもたち一人一人が主体的に活動に関わっていくため、遊びを自分たちで作り、相談し、試行錯誤していけるように、見守ったり、助言したりします。